



写真左は、色鮮やかなハンボクに身を包んだ学生たち。同右は、韓国のひざまずくお辞儀「クンジョル」の体験



## 鮮やかに、優雅にハンボク体験会

韓国文化研究クラブ

韓国の伝統衣装着てうっとり

実習室がカラフルな韓国の伝統衣装の世界に早変わり！ 韓国文化研究クラブによる恒例の「ハンボク体験会」が16日（月）、2504実習室で開催され、15人の学生が実際にハンボク（韓服）を身にまとい、異文化体験を楽しみました。

ハンボクとは、日本の着物や浴衣にあたる韓国の伝統衣装。鮮やかな色使いと、ふんわりとした美しいシルエットが特徴です。体験会は、同クラブ顧問の申敏哲教授の「もっと学生に世界に目を向けてほしい」「実際に異文化に触れて、自分の世界を広げてほしい」という願いから毎年企画されています。

今回の体験会では、女性用のチマ・チョゴリだけでなく、男性用の衣装も多数用意され、参加者たちは自分の好きな色やデザインを選びながら、笑顔で写真に納まるなど、会場は和やかな雰囲気になっていました。また、韓国民団の蔡鎮淑（チェ・ジンスク）団長と趙英海（チョ・ヨン

へ）氏が講師として来訪し、ハンボクの着方だけでなく、韓国の基本的な礼儀作法や文化的背景についても紹介。興味深そうに耳を傾けた学生たちは、初めての体験に目を輝かせ、「まるで韓国に来たみたい！」という声をあげていました。

申教授は、「最近では日韓の関係も深まり、韓国に興味を持つ学生が増えています。実際に文化に触れる機会はまだまだ少ないのが現状です。この体験を通して、韓国文化への理解を深めると同時に、大邱保健大学との交換研修などにも関心を持ってもらえたら嬉しいです」と語りました。

申教授によると、後期には韓国の伝統遊びを体験できる新たなイベントも企画中とのこと。学生・教職員問わず、誰でも参加できそうで、「『ちょっと気になる』という人にはピッタリのチャンスです。次回の開催にもぜひご期待ください」と話していました。

(NL編集部)

## スピード落とし安全運転を 学友会、学生委員会 早朝の呼び掛け

学生と教職員に安全運転を心がけてもらおうと、23日（月）から27日（金）の1週間、学友会と学生委員会が協力し、キャンパス内で交通安全の呼び掛けを行いました。

メンバーは毎日午前8時半ごろから大学正門に立ち、「校内では徐行してください」「スピードを落としてください」と大きな声で呼びかけを行いました。また、車を運転している学生には「徐行」と書かれたシートを見せて注意喚起をしていました。

24日（火）と25日（水）には、熊本北合志警察署の警察官2人も加わり、自転車で通学してきた学生に対して、ヘルメット着用の徹底と来年度から始まる自転車違反の反則金について周知。ヘルメットをかぶっている学生に対しては「ヘルメット着用、ありがとうございます」と声掛けをしたうえで、自転車を運転する際の注意点がまとめられたチラシや反射材を渡し、自転車の交通ルールについて話していました。（NL編集部）



自転車で通学してきた学生にチラシを渡す警察官

基盤研究(C)  
(一般)  
2025-27年



リハビリテーション学科  
言語聴覚学専攻  
畑添 涼講師

## 安定した職業生活に向けた支援策の構築へ

就労は、障害の有無にかかわらず、自分の存在意義を感じ、社会とのつながりを持つ重要な手段です。2024年には、民間企業の障害者法定雇用率が2.5%に引き上げられるなど、障害者雇用の環境は整備されつつあります。

しかし、高次脳機能障害者の就労率は約45%にとどまり、依然として低い水準です。その背景には、障害特性に対する社会の理解不足や、就労に関わる問題が複数の因子によって複雑に絡み合っていることが挙げられます。

こうした状況を受け、本研究では、国際生活機能分類（ICF）に基づいた包括的な評価を実施し、就労の適応や定着に影響を与える要因を明らかにすることを目的としています。また、当事者、就労支援機関、医療機関の間での効果的な情報共有のあり方や、求められる支援内容についても検討を進めています。

本研究の成果は、高次脳機能障害者が自分の能力を活かし、安定した職業生活を送るための実践的な支援策の構築に貢献することが期待されます。

今年3月に本学大学院（リハビリテーション領域）を修了した八巻魁成さんと本田啓太講師（同領域）らによる、着地時に下肢にかかる衝撃力と膝関節の筋力の関係を分析した研究論文が、国際学術誌Sports Biomechanicsに掲載されました。

### 今春、大学院卒の八巻さん

論文のタイトルは“Relationship between explosive lower limb strength and impact force during landing in healthy young individuals”（和文タイトル「健康若年者における下肢の瞬発的筋力と着地時の衝撃力の関係」）。本研究では、着地時の衝撃力制御に対してハムストリングの最大筋力よりも瞬発的筋力が強く影響する可能性を示しました。

八巻さんは2024年11月にオーストラリア・ブリスベンで開催された国際学会で、大腿部の瞬発的筋力と着地時の動的安定性の関係についての研究成果を発表。今回論文は、学会で発表した内容をさらに発展させたものです。

国際学術誌への投稿は、八巻さんにとって初の体験。掲載を「大変光栄なこと」と喜ぶとともに、「大学院の先生方の温かいご指導とご支援のおかげで、形ある成果として結実させることができました。また、早く研究に協力して下さった学部生や大学院生の皆さんにも心より感謝申し上げます」と感謝を口にしました。

今後は博士課程に進学する予定だそうで、「スポーツバイオメカニクスの分野で研究をさらに深め、国際的に通用する成果を発信できるよう、これまで以上に精進していきます」と意気込みを見せていました。（入試・広報課）

高校生を前に実技指導をするスポーツリハビリテーションコースの学生



## トレーニング研修会開催 中高生アスリートを支援

熊本県内の中高生を対象とした「熊保スポーツプロジェクト - for Youth -」のうち、熊保スポーツゼミと命名したトレーニング研修会を18日（水）、熊本市西区の熊本西高校で開催しました。

この取り組みは、スポーツ科学（健康科学）に基づく研究と教育を通じた県内中高生アスリートの支援を目的としています。この日は、健康・スポーツ教育研究センターの本田啓太講師、宮崎宣丞助教（いずれも理学療法学専攻）と、スポーツリハビリテーションコース所属の学生10人が同校を訪れました。

研修会前半は、宮崎助教が「筋力トレーニング」に関する講義を実施。参加した高校生たちは専門的な知見に触れながら、競技力向上や障害予防に必要な視点を学びました。後半には、学生による実技指導もあり、より実践的な交流が図られました。

今回の実施を通して、内容の難易度設定や参加者の人数配置などにおいていくつかの課題も明らかとなりました。いただいた熊本西高校からのフィードバックを踏まえ、次回以降のプログラム内容についても適宜改善を図ってまいります。（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）

## 「生きるため」の身体の仕組みに興味津々

理学療法学専攻と作業療法学専攻の必須科目「生理学Ⅰ」は、生きるための仕組み（臓器や神経の機能など）を学ぶ授業です。

受講学生が目指している理学療法士（PT）や作業療法士（OT）は、心身機能に障がいを抱える人々の日常生活改善をサポートすることを大きな目標としています。このため、身体の仕組みや機能といった基礎知識を身につけておく必要があります。「生理学Ⅰ」では、その土台となる知識を得ることができます。

23日（月）に1501講義室Mで行われた授業では、授業担当の土井篤教授（理学療法学専攻）が、皮膚の機能と構造、筋肉が収縮するメカニズム、骨が日々作り出されている仕組みなどを説明していました。学生たちの反応が大きかったのは、皮膚機能の説明の時でした。「皆さんが暑い夏に気にしているワキ汗も汗腺の収縮によって起こります。今までの

制汗剤は皮膚にある汗腺にフタをして汗を抑えるものですが、汗腺収縮を抑える成分の一つが分かったので、今後そのような成分を配合した制汗剤も出てくると思いますよ」と説明すると、大きくうなずき、すぐさまメモを取る学生も見られました。（NL編集部）



皮膚の構造について解説する  
土井教授

授業  
拝見

## 学年、学科超え熱い戦い

### 笑顔と歓声...ボウリング大会



笑顔と歓声に包まれた球技大会（ボウリング）の会場

恒例の球技大会（ボウリング）を21日（土）、熊本市中央区のスポーツ熊本で開催しました。午前と午後の部で、昨年を上回る計28チーム、95人が参加。チームの平均点で競い合い、学年や学科・専攻を超えた熱い戦いが繰り広げられました。

ストライクやスペアが出るたびに歓声と笑顔があふれ、会場は終始明るい雰囲気になりました。競技の合間には記念撮影や談笑する姿も多く見られ、交流の輪が広がりました。

個人優勝を果たした医学検査学科2年の伊藤遼紀さんは「他のチームとの接戦を楽しみながら無事に優勝できてよかったです。来年も俺たちが優勝します！」と笑顔で話してくれました。

今年も無事に開催することができ、学生同士の絆がより深まる貴重な1日となりました。参加賞の1ゲーム無料券で早速練習する学生の姿も見られ、来年の大会にも大きな期待が寄せられます。（学友会広報 久保綾香＝理学療法学専攻3年）

学友会  
日誌

### 今週の1枚

7月7日は七夕。今年も学内に学友会の手による笹竹が登場し、学生たちの願い事が書かれた短冊で華やかに彩られています。色とりどりの短冊には「国家試験に合格したい」といった本学の学生らしい願いや、「楽しい時間がずっと続きますように」など、それぞれの思いが書かれ、日に日にカラフルな笹竹にパワーアップ。7月8日（火）まで飾られていますので、叶えたい願いがある方はぜひご参加を♪

（NL編集部）

笹竹に彩り  
星に願いを



週間行事予定（6月30日～7月7日）	
7/2（水）	韓国・大邱大学交換研修生ウェルカムパーティー
7/7（月）	学術講演会「改正薬機法ーその意義と実際」